

## ◎暫定的な試合・審判法のまとめの訂正について

現在、広剣連の暫定的な試合・審判法のまとめの中で、鏝迫り合いに関する反則について、当分の間副審が止めをかけてもよいとしていましたが、全剣連の審判委員長に確認したところ主審の専決事項で統一することでした。

広剣連でも今後は鏝迫り合いに関する反則は主審の専決事項とし次のように訂正します。

### — 暫定的な試合・審判法のまとめ —

**審判** 3. 鏝競り合いについては主審の専決事項であるが、分かれの際の反則については当分の間（暫定的な試合・審判法に慣れるまで）副審が「止め」をかけてもよい。



### 3. 鏝競り合いについての反則は主審の専決事項である。

## ◎日本剣道形【共通理解】（中田瑋士講師 配布資料により抜粋）

- 1 中段の構えの延長とは、棟の鏝元と切っ先を直線で結んだ延長をいう。
- 2 太刀一本目、打太刀正面打ちを抜かれた剣先の高さは下段程度。
- 3 太刀四本目、双方切り結ぶ位置は、およそ刀の中央部、剣先は、正面の高さ。
- 4 太刀五本目、仕太刀の中段の構えは、一拳前に出し刃先は、やや斜め下。
- 5 太刀六本目、仕太刀がすりあげ小手を打ったとき、右足を踏み出し左足を引き付けるを原則とするが、間合いによって引き付けなくても、踏み出したと解釈する。
- 6 太刀七本目、仕太刀がすれ違いながら胴を打つときの方法。
  - (1) 右足を右前にひらいたとき、刀を左肩上に振り上げ左足を踏み出すと同時に胴を打つ。
  - (2) 右足を開いても（体は移動させない）刀を振り上げず、左足を踏み出すと同時に振り上げ振り下ろす一拍子で打つ方法。（修錬者の錬度に応じて指導する）
- 7 小太刀半身の構えの刃先の方向
  - (1) 中段半身の構えは、刃先はやや斜め下に向ける。
  - (2) 下段半身の構えの刃先は、真下とする。